

卒業論文の要旨

論文題目	ヘレニズムにおけるアレクサンドリアの自然哲学 —アレクサンドリアにおけるエジプト的要素とギリシア的要素の考察—
氏名	榎木 健人
メジャー	宗教学
<p>(要旨)</p> <p>本研究では、西洋を中心に語られてきた哲学史に対し、非西洋世界が西洋にもたらした影響について考察するものである。その影響を考察するにあたり、西洋の源流の一つである古代ギリシアと、オリエントが混淆したヘレニズム時代における自然哲学を取り上げる。古代ギリシア、後にプトレマイオス朝が支配する古代エジプト、ヘレニズム有数の学術都市であるアレクサンドリアの数学と医学を比較し、ヘレニズム時代における自然科学のギリシア的要素とエジプト的要素を考察した。</p> <p>その結果、ギリシア古典を育んだギリシア本土から離れたアレクサンドリアにおいて、ギリシアに源流を持つ自然科学が発展を見せたことは、ヘレニズムにとって重要な事柄であることがわかった。本研究は、ヘレニズムの理解は超文化的な視点が必要であり、その影響を受けた西洋に対する認識もまた、超文化的な視点の必要性を提示するものである。</p>	
<p>(指導教員の推薦のコメント)</p> <p>アテナイと並ぶ古代学芸の中心地アレクサンドリアの特質を、ギリシアのみならずエジプト固有の伝統的科学をも丹念に検証し両者の相違を提示、これらに基づきヘレニズム文化の重層性に関する独自の見解を構築した論考である。のみならず近代以降の西洋中心的視点に対する明確な認識もその考察における特筆すべき点であり、本論文執筆によって獲得した学究的姿勢が今後独自の研究を展開する礎となることを期待しつつ、これを優秀卒業論文として推薦するものである。</p>	